

# 総務委員会行政視察

総務委員会は、世界自然遺産、エコパーク、ジオパークにかかわる一市二町一企業の取り組みの視察を行ってきました。南アルプス市の芦安山岳館では、山を仲立ちとしたさまざまな交流の様子、早川町はエコパークとリニア中央新幹線開通に向けた取り組み、川根本町はエコパークの一環として体験型観光事業の取り組みについて、また、北杜市では民間企業のエコパーク活動推進についてです。それぞれの取り組みを含め現況と成果と今後の課題について視察してきましたので報告します。

## サントリー(株)天然水 南アルプス白州工場

天然水の森を守る環境活動や、水育事業など次世代環境教育を通じて、民間企業がエコパーク活動を推進している状況を視察しました。

「人と自然と響きあう」という企業理念のもと、水を育む森を守り、水を大切に使い、きれいにして還すという活動を、高い目標に向けて行っていました。

「天然水の森」を数十年先、百年先に理想的な森にするために、大学などの研究機関と最先端の技術を活用した共同研究や森林



工場職員から説明を聞く

整備を行っています。「自然と共生する持続社会の世界的モデルになる」と力強く宣言された工場長に、さすが飲料界のトップメーカーならではの姿勢であると感動しました。

## 南アルプス市芦安山岳館

南アルプス市の芦安山岳館を視察しました。市議会より深澤米男議長に挨拶をいただき、塩沢館長に山岳館(山岳文化と貴重な自然と文化)の説明を受けました。山の歴史は、富士山が二万年、南アルプスは一億三〇〇〇年で素晴らしい植物もあり、世界遺産も目指しています。山岳館は現在11年目になりますが、図書館も併設され山岳関係の本も八〇〇〇冊を超え、後世に情報を伝えるためにも増書しています。南アルプスを世界のシンボルへの情報発信、エコパークによるブランド化、共有財産として市町村間の交流の重要性について担当者から説明をいただきました。



塩沢館長から説明を聞く

## 山梨県早川町



リニア新幹線開通予定地を視察

合併して細長い町となり、各地区ごとに努力され潤うように考えてきています。町長が自ら視察バスに同乗し町の状況やユネスコエコパークへの取り組み、またリニア中央新幹線に対する取り組みを説明していただきました。東京の品川区との交流も行い、毎年小学生も訪れています。三菱自動車と提携し「パジェロの森」の名称で山の再生活動も行っています。今後については南アルプスに対する住民の意識を高め「南アルプスエコパーク早川」を訴えていきたい、リニア新幹線が早川町の山並みを谷渡りする、工事によって出る残土を南アルプス道路の開設に利用できると辻町長は考えています。

## 静岡県川根本町 町おこしの起爆剤に

川根本町のキャッチフレーズは「水と森の番人が創る癒しの里」。これはユネスコエコパークの基本理念と致する、としてこのたびの認定を、町おこしの起爆剤にしようと町振興への息吹がみなぎっていました。これを裏付けるように、DVDでの「川根本町の魅力を世界に」南アルプスユネスコエコパークへの挑戦(26年3月制作)は伸びゆく町の未来を映し出すかのような迫力あるものでした。これからは、町の自然や文化などの資源を活用するエコツーリズムを推進し、体験型観光事業で各地域の活性化を図っていきたくとしています。



エコパークの取り組みについて担当者から説明を聞く

# 道路・交通対策特別委員会の活動報告

5月臨時議会において、道路・交通対策特別委員会が、委員6名、任期2年で設置されました。この委員会の活動は、道路と公共交通についての調査と提言を目的としています。①公共交通の実態調査・研究や飯田線と公共交通との接続状況の調査研究を行います。②環状南線について地元の意見を聞きながら進捗状況や整備促進について検討します。③道路整備計画路線の現地調査と整備促進について要望活動を積極的に実施します。今回は長野県への要望活動と、路線バスの実態調査を行いましたので、その結果を報告します。

## ●長野県への要望活動

長野県建設部長に要望書を提出しました

伊那地域の国道道の整備に関し、主な要望として国道153号全線を国の直轄指定区間に編入すること。153号伊那バイパスの事業促進。伊駒アルプスロードの早期ルート確定と事業化。慢性的な渋滞、すれ違い困難箇所など問題となっている国道道の早期改良などについて、向山公人県議会議員に同席していただき、奥村建設部長に対し要望書を提出しました。



奥村康博建設部長に要望書を手渡す  
平岩國幸委員長

意見交換の中で、委員から「伊駒アルプスロード右岸側のルートは県主導で早期に決定してほしい」旨の要望が出され、これに

し建設部長からは、「県としてできる限りのことをしたい」との回答をいただきました。

長野県企画振興部長に要望書を提出しました

公共交通(路線バス・JR飯田線)は市民の足として必要不可欠である一方、利用者が年々減少し、路線バスの縮小などが進む中、真に公共交通を必要とする方々のためにも維持と持続可能な公共交通システムの構築が求められています。そこで、県による指導と必要な財政的支援などを求める要望書を原山企画振興部長に提出しました。意見交換では、委員から「環境面からも公共交通の役割は大きい。国に対して十分な予算付けを行うよう要望してほしい」などの意見が出されました。



原山隆一企画振興部長に対し、市の状況を説明する伊藤泰雄議長

## ●午前9時台路線バスの実態調査を実施

若宮・美原・手良・福島循環バス

伊那営業所発の循環バスに乗り調査開始。乗降客は合計15名で、乗車利用目的はほとんどの方が通院のためで、頻度は週1回程度とのことです。利用する方々からの要望として、手良・福島循環便が9時13時で15時が廃止され不便。週1便でも復活してほしい。また、市街地循環バスの運行が、外回りだけのため、目的地までの時間がかかり不便。運行時間限定でも良いから、内回り便の復活希望の声が強く出されました。

## ●富県・東春近地区循環バス

利用者人数は、富県4名、東春近(晩野まで)4名で、合計8名でした。降車は富県内1名で、残りの方は、市街地で降車されました。乗車された方は、バスを利用しているのになくなったら困る。帰りのバス乗車時間の調整に苦労するのでなんとかならないか。南箕輪村まで拡大を。通り町の活性化(気楽に入れるお店がほしい)などの感想が寄せられました。利用の目的は約半数が医療



路線バスに乗り、調査を開始する特別委員

機関利用でした。

## 西箕輪線 営業所から与地まで

与地行き乗客は4名で、3名が病院などへのお見舞い、1名が親戚訪問でした。帰りの便は8名で、買い物2名、通院2名、葬式2名、その他2名でした。行きの所要時間は54分、料金は片道570円。料金を安くしてほしい、便数を増やしてほしい、休日・お盆も運行してほしい、南箕輪村のまっくんバスの情報もほしいなどの要望がありました。